

<議事（１）に対する質問>

発言者	内容
高橋克義委員	<p>ある程度はですね、私なりに考えたことでちょっと意見を述べさせていただきますと思います。</p> <p>まず最初の資料の1-2、その中の10番デジタル化推進、この町をデジタルの最先端の町にするという大きな目標、長期的なんですけどね。目指してもいいんじゃないかなと思います。例としましては仙南の2市7町ですね、全体を仕切るくらいの会社を、企業誘致を行いまして、ちょっと大胆なことを言いますと、今回デジタル関係で経営者の方と包括契約を行ったと広報に載ってましたけども、その会社の支店もね、大河原町の方に作ってもらうような感じで。</p> <p>今年や来年の話ではないと思いますけれども、そこら辺も一歩先んじてやっていった方がいいんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>あとですね、これによってデジタル化の雇用を生み出すということが大事かなと。</p> <p>なんで雇用にこだわるか、というと、最近記事で読んだんですけど、静岡県知事が新しくなりその中で職員訓示したところ「これからの自治体には経営感覚が必要です。だから新しいことには果敢でチャレンジしてほしい」話した。要は自治体にもビジネス的な経営感覚が必要んじゃないかなと思ひまして。先ほど言いましたようなデジタル化をもっともっと広げて、企業誘致に至るような長期間のこともやったらいいんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>2つ目はですね、同じく資料1-3の①、一目千本桜。これ全国放送で出るんだよね。</p> <p>ですからこれもやっぱりビジネス化としてとらえて、観光客を呼ぶだけじゃなくて、飲食店とか宿泊業、その辺も企業誘致したらいいんじゃないかなと。言うのは簡単なんだけども、なかなか難しいこととは思いますが、やはりこういう大きな長期的な展望というか「思い切った考え」、失敗してもしょうがないとは思いますが、そんな形で計画に盛り込んでほしいなというふうに思います。</p> <p>もう一つすいません。資料1-3の施策③の子供対策です。</p> <p>これはですね、今回こども家庭センター設置されましたという配布チラシ配布ありましたよね。あれ非常にいいことだと思うんです</p>

	<p>ね。私も今の子育てをやってる人が、町でどういうことをやっているのか、どういう施策があるのかわからないのが現状だと思うんですよ、せっかくあるのに知らないから利用してないということがあると思うんで、これ（取組みが）すごいと思って。大いにあの素晴らしいと思ったんですね。</p> <p>それでさらにこれを発展させるための案としまして、一応下のところ見たら問い合わせがね、平日の8時半から17時15になってですね、これだと子育てっていうのは、今の人は共働きで日中はいけない。</p> <p>センターはほとんどは土日休みで、平日はいない。予約にも相談するにも、こちら辺はちょっと知恵を絞っていただければ。たとえば毎週やる必要はないだろうが予約制にして、相談員の方の都合もあるでしょうから、やっぱり何日もというわけではないが役場の方で、人が多ければ調整していただいいて、何日ごろに相談お受けしますと。そのときにいろいろこういうのがあります。といったように相談していただければ、なお一層この今回の配布されたチラシが生きるんじゃないかというふうに思いました。</p> <p>以上でございますけれども、最後に皆様への問いかけとして一つあるんですけど、皆さんはほとんどが大河原在住だと思うんですけど「大河原のまちの魅力って何ですか一言で言えますか」…というのがキーワードじゃないかなと思うんです。ここでみんな出てくるものを合わせて、これから〇〇だなと、私個人ながら思いました。</p>
長谷川主幹	<p>いろいろご意見いただきましてありがとうございます。やはりこれからもデジタルの部分でどのように地方創生に繋げていくかっていうことがポイントなのかなっていう部分は町の方でも自覚しているところがございます。先ほどおっしゃった通り、DX社、の包括連携とかですね、関係性を持つ部分とどのように足並みを揃えていくとか、そういうことを今後詰めていくことを考えていかなくちゃいけないというところですね。</p> <p>町の方に誘致するっていう部分からしますと、やはり大きな事業になっているところもありますので、親密性をもっと強めていくっていうのは今後の話になってくるのかなと思ってます。ただ、雇用に繋がるっていう部分については、やはりこの地方創生の総合戦略の中では必要なことだと思っております。</p>

	<p>あと一目千本桜、こちらのブランド化につきましてもやはりこれらの情報をずっと皆様の方からもご意見いただいたところがございますが、観光客の対応、また宿泊等ができれば（滞在型とか）そういう部分について、本当に将来的にどういう観光体制・受け入れ体制を持っていくんだということについてはやはりこう描いていかなくちゃいけないっていうのは確かなところですよ。今のところ、4月の桜は盛り上がるんですが他にもちょっと盛り上がってないっていうのは本当にあるところがございます。で、まずは通年観光という部分をどのように創出していかってっていうのを少しずつ力を入れていくっていうことが今の現段階なのかなと思っております。そういう方向性は自覚してるところでございます。</p> <p>子供の対策となりますと、やはりおっしゃった通りいろんなよう要求する要望そういう部分もございますし、困ってるところにやっぱり町の方ではどのような支援ができるかっていうのが、今後どうもまんなか社会っていう部分を実現する中で一番大切なのかなという。先ほどおっしゃった通り、毎日でなくてもそういう相談を受けられる予約制を取ったりとかですね、この時間だったら何とかいけるんだっていう部分とかですね。そういう話し合いをしながら受け入れ体制も考えていくっていうのも確かなところかなと思っております。</p> <p>このご意見いただいたものにつきましては、役場の庁議、管理職を含めた会議があるんですが、そちらにもご提示しながら情報交換をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。</p>
<p>安藤俊和委員</p>	<p>資料のですね1-3の7ページですね。ふるさと納税なんですけれども、令和2年が8000万、令和3年23億円あったという。これは多分、アイリスオーヤマが大体…99.7%ぐらいです。</p> <p>アイリスオーヤマの多分一番の景品は家電だと思うんですよ。ですがアイリスオーヤマはですね、こここのところ家電を少し絞ってます。ですから今後家電については減る可能性があってくると思います。これそのものを行政のものとしてきちんと計上しているわけではないと思いますので、今後こういうものがなくなった場合どうするかっていうことが一つ課題になっていると思います。</p> <p>あと前回の話にありましたけれども、アイリスオーヤマだけじゃないブランド化ということで、桜の木の染め物とか、そういうもの</p>

	<p>の話があったんですけどもう、その後何か新しい事業っていうか、そういうブランド化っていうもののは起こってるんでしょうか？</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>はい。ふるさと納税の関係になりますけれども、アイリスオーヤマさんがもうほとんどというのがこれまでの流れでした。</p> <p>実は去年の夏ぐらいからになりますけれども、寄付が増えるのは嬉しいんですけどもやっぱり私達の町としては、町を知ってもらいたい。町の商工業者・事業者の方たちも、どんどんその活力を生かしてほしいということでいろんな仕掛けを始めておまして、実はふるさと納税を実施するにあたっては、返礼品を送るとか納税登録など請け負っている事業者さんですけども、その事業所の事業者さんは、商品開発とかですね、地域おこしっていうのを組みたいという我々と同じ考えでいらっしゃる事業者さんですので、そういったところで実はその新規の就農者の方であるとか農家の方について、説明会というかですね、今後の取り組みについての意見交換会というのも始めまして。そういった中で興味を示していただいている梅組合さんとか若手の農業者の方であるとか、それから農業法人の方であるとか、そういったところで徐々にですねその商品開発に向けて始まっているところでございます。</p> <p>あとはもう一つ考えているのが、やはりこの返礼品を送って終わりじゃなくて、大河原町に来てもらうような返礼品を考えたいというふうに考えておまして、実は「うらにわあとリエ」さんとかですね、そういったところにお声がけして、いろいろご協力していただくとかですね、あとは「ヒルズ」さんに来ていただいて大河原町を体験してもらうといった形の新たな商品の開発が今徐々に始まったというところが現状になっています。</p>

<第3期の総合戦略計画策定>

発言者	内容
高橋克義委員	<p>意見なんですけど、出生数が少ないということで今騒がれてますけども、実はですね、私3月まで角田の中学校の方に勤務してました。</p> <p>その中でやっぱり気づいたのが、大河原町にいとわかんないが、角田市でいうと、西根小学校、なくなります。金津中学はなくなり、近いうちに北角田中と角田中学校統合というのが今進められているようです。蔵王町、遠刈田小中学校、宮中学校、遠田中学校統合で。大河原町に住んでると、そういうのって何もわかんないですよ。だからそういうのはもう少し危機感をね、持って進まないと子供に対する対策っていうのがちょっと希薄なんじゃないかな、と。私も含めてもっともっとやらないと本当になくなっちゃいますよ学校が。寂しいですよ。そこだけは皆さんもう少しやっていきたいなと思います。</p>
政策企画課長	<p>おっしゃってる通り学校っていうのはその地域コミュニティのすごく大切なグループというかですね、やっぱり他の政策にもよるんですけどもやっぱり子供の数が減る、出生が減る、そうするとコミュニティがどんどん小さくなっていったということで、その子供を中心に、学校を中心に、とかですね。そういったところ世代間の繋がりもどんどん広がってくるというふうに考えてますので、おっしゃる通りそういったところは少し。</p> <p>今まだ大河原それぞれの人口は確保できているとは言え、町長の挨拶にもありました、その子供の数が一気に減ってきているという現状もありますので、我々としてそういった強い意識を持ってですね、今後計画づくり、やっていければなというふうに思ってます。</p>
晋山孝善委員	<p>策定について全般的に、何度も言われてるDXっていうことが一番言われてて、全てのその取り組みに、DXって取り込むことができるはずなんですよね。</p> <p>ただ、一つわかるのが、今なんていうか与えられたものを使うんじゃないくて、「何を困ってるか」という話がほぼできてないっていうところがあって。結局その今困ってる、時間かかっている、ということ、業務効率化が進むこと、これやめたら進むことっていうことをまず洗い出しすることがDXではまず最初だと思うんですけど。パッケージだけ入れてくるっていう形になって、それに合わせる形</p>

の業務になりつつあったりとかするので、結局使える人と使えないとはっきりでてしまうっていうのが現状だと思うので、もっと小さなところから始めることが行政にとって非常に重要だと思ってて。

もう一つは住民サービスにおいて今もそうでしたが、アプリだったりとかいろんなことをマイナンバーカードの保険証化だったりとかするんですけど、基本的に住民の方って高齢者の方はどんどんこれからますます増えていくので、子供さんにもそうだけど、いわゆる年寄りにどうするかっていうのが非常に重要なんです。

今デジタル使えてる方も、私もそうですけど、もう本当に目が老眼になってきて、スマホなんか触っても乾燥で動かないみたいな、もう本当そういう状況になってくるので、私は住民サービスにおいてはアナログは絶対残すべきだと思ってまして。

自治体側のシステムをどんどんDX化することで、インプットとアウトプットは今のまま残し、それを受けてデジタル化して行政の中のシステムを動かして、出すときもその必要なものに応じて出せるような、そういう仕組みを作っていくべきだと思うんですけど、どうも今のベンダーから言われたこのパッケージを入れてしまって、それ以外にはまらない人は外れていくっていう。民間はいいですよ、効率的に見ればいいんですけど。行政はやっぱり住民の方なので、国が言ってる「誰1人取り残さない」って言ってるにも関わらず国もどっちかっていうと取り残す方向で行ってるので、そこは全然違うなと思って。

実際は本当に住民の方と近いので、そういう意味でDXの取り組み型の基本に戻るべきだとすごい思うんですね。

いろんな意味でスマホを使ったもの、アプリ使ったものっていうんですけど、すごく考えなきゃいけないのは、それを効率化できるようですけど、更新費とかコストが変わってきます。

これを本当に最初は安く導入補助金を使って導入したらいいんじゃないか、みたいな話がベンダーからくるとは思いますけど、これについても結局保守料がかかってきて、結局今まで以上にかかってしまうみたいなジレンマになると思うので、いかに汎用的な普段皆さんが使えるものを使ったシステムにしていくかっていうのがすごい重要なので。本当にベンダーの言う通りにならないようにと思います。アプリについても、Webアプリって別に特別に作るんじゃなくて、いわゆるホームページ（と同じ）ですよ。

ホームページだと、行政の方も更新とかいろいろできるはずなの

で。Web を作っていくことで、すごい汎用的で iOS 用やらなくてもいいし、Android 作らなくてもいいし、Web 作るだけで、スマホで全部使えるようになるので。そういうふうな本当にコストが安く、継続しやすいものを選択するようにするための誰かアドバイザーを絶対入れるべきだと。私はこの策定にあたってですね、まずそれが必要だと。実際皆さん専門家の方がいらっしゃるの、ベンダーもほぼ上から営業の人間がぱっと来て、これ入れればこうなりますみたいな、そういうすごい夢見た話しか言わないので実際は入れて本当に困るとか、あとコストをどうするのって。

この間の熊本でしたっけ、Suica やめるっていう。更新費が高く、高すぎてやめるみたい話があったように、QR コードに今度しますみたいな。ああいうことになっていくという前例だったと思うるので、本当にその辺は注意された方が、せっかくお金かけてやっていくのに、特定の開発だけで他予算足らなくなるっていうことにならないようにしないと多分駄目だなというふうに、すごい DX については思います。

少子については本当に皆さんいろいろ思っていて。実際人口減るので、この差が減っていくのはもうどうしようもないことですが、実はこれいい流れとは別ですけど、海外の方がいらっしゃるんですよ。いかに移住・定住の中に、おそらく外国の方を考えるべきだと私は思っています。

なので、外国の方が住みやすいまちにすることが、実はその人口維持したり、子供さんが増えたりする一つの要因だと思うので、今あちこち行ってもほとんどその今いる方たちのことをやってますけど、外国人の方っていうのあんまり取り組んでるところ多分ないので。北関東とかね、工場があってそこでいろいろやられてるところありますけど、宮城だとあんまり聞いてないので、ぜひ先駆的に取り組みをされて、いかに外国人の方が住みやすく定住しやすいかっていうところをやってですね、

言語を揃えとかですね、一定維持に対してその取り組みをされることが少子化・人口増、減に歯止めをかける私の唯一の方法だと。他皆日本人の方が取り合いになってますから、本当に企業もそうですけど。取り合いになってますから。今だとまだ日本は憧れの国になってますけどこの先わからなくなるので、今のうちにね、ある程度この地域に定着していただけるような、魅力のある形とあと誘致・受け入れしてますよっていうのを全面に立てることが、少子と

	<p>高齢化とその人口減に一番私は効くんじゃないかなというふうに。</p>
<p>高橋克義委員</p>	<p>デジタル化について補足、私素人なんですけど、前職っていうか40何年前はホンダの二輪設計やってたんですね。その頃って、図面っていうのは、手で書いてたんです。それがだんだんと2次元のCADになって、いま当然3D。あと3Dプリンターがどんどん進化してるんだよね。これって何かつつたら、あくまでもデジタル化ってのは道具ですからね。最終目標じゃないですから。</p> <p>人の幸せを作るのが最終目標であって、デジタルだったらこの中の手段であって、そこを皆さん日本の方はどうも間違ってるんじゃないかというふうに言われてますね。</p> <p>私もそういう経験を積んできてあくまでもデジタル化とか機械とかそういうコンピューターとかやってきましたけれども、あくまでも道具・手段なんですけどできたものが、変わったから当然技術の進化があるんでちょっとずつは変わってるんですけど、基本は変わらないですからね。設計の効率化とか、そういうので手段として道具として進化してるだけであって最終目標じゃないですから。</p> <p>そこだけはちょっと皆さん間違わないようにいただきたいなと。海外の方はどうかという、私もその方向、みたいな感じなんですけど、今困ってることを実現するためのデジタル化ですけど、日本人ってのはデジタル化することが仕事なんです。</p> <p>これってやっぱり違うんだなと、そこはちょっともう再考してもらおうことが必要かなというふうに考えてます。</p>
<p>長谷川主幹</p>	<p>ここにデジタル取り組みって欄がありまして必ずこの政策に関してデジタルの取り組みがどのようなことができるかっていうのも、担当課担当者の方で一旦検討してもらおうとかですね考えてもらおうっていう一つの手法にしていきたいなというところもありましたので、そういう部分もまとめて政策の方向性に入れてきたと思いますので、よろしくお願いとしたいと思います。</p>

<次第7 その他>

発言者	内容
押野知子委員	<p>すいません最後にちょっと皆さんと情報共有したいなと思うことが一つあります。私もこの街に住んで19年になるんですけど、やはり今この大河原町っていうのは今でも一目千本桜の町っていうことで皆さんの意識の中ではあるんだなということをですね、一目千本桜プロジェクトっていうこの町の名前からしても思ったんですね。</p> <p>以前ですね樹木医の尾形先生と一目千本桜について話す機会がありました。今皆さんももちろんご存知だと思うんですけども、ソメイヨシノは樹木寿命が90年から70年で今100年目の木が老木であるんですけども、それを何とか1年2年長引いてね健康で皆さんの目を楽しませていけるようになっていうことで尾方先生も頑張っているんですけど、保全保護っていうのは限りがあるんだよっていうことをやはりおっしゃってありました。</p> <p>今一目千本桜、日本で一番歳をとった桜の木っていうのが150歳なんですね。それが関東の方に1本だけ残っていてそれが最高齢ということで。つまり、あと50年後には、少なからずこの町の桜もなくなっていくのではないだろうか、私は先生のお話を聞いていて思いました。</p> <p>今何がネックになってるんですかっていう話をしたときに、やはりその法律によって植えられないと。川沿いにですね、植えられない。できれば新しい木を植える、もしくはその長い間、土が痩せ細っているんだよっていう話をされていたんですよ。なので、仮にその植樹したにしても今の千本桜ほどは元気に長生きはしないだろうっていうことをおっしゃってありました。できればその全部掘り返してですね、土を入れ替えてですね、やっていかないといけないんですけども穴を掘ることすら難しい法律があるそうです。</p> <p>なので、非常に今、桜の木が弱っていて感染症にかかりやすい。人間でもおじいちゃんおばあちゃんと同じような状態なんだよっていうことをおっしゃってました。</p> <p>尾形先生の提案としてはですね、その保全っていうのは限りがあるので植えていかなければいけないんだよっていうことをおっしゃってありました。</p> <p>つまり、できれば山に植えたらいんじゃないかっていうふうにおっしゃったんです。</p>

	<p>その並木道っていうのはやはり人間の考えで、植えるじゃないですか。でもやっぱり土がどんどん痩せていくってことだったので、山であればまだその維持がまだ続いていくんじゃないかっていうことをその専門家の意見としてねおっしゃっていただきました。なのでもう隣の町でもそのようにされていると思うんですけど、公園として新しい一目千本桜プロジェクトというんでしょうかね。</p> <p>これから本当に100年後200年後考えて、町として計画を立てておいた方が一目千本桜の街をね、これからの子供たち、また子孫に残して財産として残していくためには、こういった計画が必要なのでないかなと思いました。もちろん桜の会さんの方でもね、何本も何十本も入れてくださってると思う、そういったことも皆さんとちょっとと話していけたらいいかなと思いました。</p>
安藤俊和委員	<p>ちょっといいですか。昨年違う前回の時もちっと同じようなお話を多分私させていただいたと思うんですけども、堤防から見たときに、って話したと思うんですよ。</p> <p>蔵王の残雪を見るんですよ、桜並木を含めて。そのときに手前にその丘というか山がありまして大河原と蔵王町の境のところ。が、やっぱり目に入るんですよ。堤防が駄目になるときについていうことで私はそこに桜の公園とか桜の丘を作ったらいいんじゃないのかっていうお話させていただいた記憶はあります。</p> <p>ただ、桜、我が町としてはかなり有名なんでそのまま乗っかるという方法もあるんですけども、本当にサクラだけかなという感じもありますので、その辺も含めて、あの辺で山をですね、きちんと人間の手が入ってどうのこうのっていうよりも、一つの大きな景観として生かしていければいいのかなというふうには思っ、先日もちょっと提案させていただいたという記憶があるんですけどもぜひ検討していただければと思います。</p> <p>あと工業団地としてですね、大河原町は土地が狭いんで他の市町村から比べると企業さんが来ても、土地がないということではなかなか誘致がされないっていうこともちょっと聞いているものですから、そこをちょっと全部開発するとなんか壊してしまうような気がするんで、村田みたいにちょっと山の一番の地盤の良いところを企業様にとって置いて、手前の田んぼを貯水地として残しておくとか、そういうその将来性をもっとやっぱり見て何かがあってもいいかなと。</p>

	<p>町有地じゃなくて、私有地なもんですからなかなか難しいでしょうけども、そういうことを含めて開発していければ人口もそう減ることもないだろうし、雇用も減ることもないのかなというふうには思っています。</p>
<p>笠松利信委員</p>	<p>すいません一言だけ、ちょっとだけ今のお話を聞いてて思ったんですけど、私実は4月20日から4月27日まで石川県能登半島の方にちょっとボランティアで行ってきたんですけども、あちらの方で私がやった行動はニーズ調査だったんですかね。</p> <p>いろいろ話を聞いてたんですけど、やっぱり開発していくと土を削ったり山を削ったりしたところは、やっぱり弱くなって、竹を植えると根が張っていいっていうことで竹を植えたり、木を植えたりってあったんですけどやはり震災には勝てなくて、あの土砂崩れが多々起きている。</p> <p>私が行ったのは、皆さん多分聞いたと思うんですけど、七尾市とか珠洲市とか能登半島和倉温泉の方に行ってきたんですけど、通行止め全部で現地にたどり着けない状況だったんですよ。</p> <p>たまたま行った区長さんの方に話を聞いたら、段々畑みたいなどころの地域…集落っていうんすかね、そういうところもあったんですけど、全部崖崩れでもそれは作った山を削って作ったところらしいんですよ。でも、木を植えてもやっぱり耐えられなかった。</p> <p>なので、今ちょっと安藤委員が言ったように、山の方に作ってもやっぱり防災をしっかりしておかないと。その災害が起きたときに、住民の命を落としてしまったんでは元も子もないと思うので、しっかりそこら辺もやっていった方がいいのかなと。</p> <p>皆さんは東日本を経験して、あと私はちょっと丸森の台風19号のときもボランティアに入って、今回その元に戻ってきてっていうそのいろんな箇所を見せていただいたんですけど、やっぱりその場所その場所で違うもので、情報もいろいろ聞くと、やっぱり防災って東日本13年経ってくると忘れてくるので、そこもちょっと意識しながら、地域づくり、まちづくりした方がいいんじゃないかなというふうに、ちょっと聞いてて思いました。</p>
<p>長谷川主幹</p>	<p>いろいろお話いただきますけどやっぱり大河原町は狭いので、半分が農業振興地域といって農地を守る地域になってるんですね。</p> <p>そしてその形状をどのように確保していくかっていうのが一つのルールというところもありますしそういう部分もあります。</p> <p>また台風19号のときの部分で災害が起きやすい山あいていうの</p>

も指定されてるところもあったりします。

そういう部分もずっと考えながら何ができるのかというのを検討させていただくという状況になるのではないかなと思っています。

昨年の桜の延命も、確かにもう寿命は目の前に来てるのも、それは確かにあるんですけども。